

競技上の注意

第55回山口県中学校卓球選手権大会
審判長 安 永 周 二

1. 適用ルール等について

- ①令和2年6月1日一部改定の日本卓球ルールを適用して実施する。
- ②試合は11ポイント5ゲームで行い、3点先取とする。
- ③審判については、団体戦は「相互審判」、個人戦は「敗者審判」を基本とする。

2. ボール・ラケット・ラバーについて

- ①ボールはプラスチック製の公認40mmホワイ球を使用する。ボール選択は試合毎に行うこと。
- ②ラケット本体の打球面は、公認のラバーで覆われ片方は赤、他方は黒とし、打球しない面はラバーと異色（赤または黒）であること。
- ③外国製ラケット（JTAAマークのないラケット）を使用する場合は、予め試合前に審判長の許可を受けること。

3. 競技用服装について

- ①競技用服装（半袖シャツ、ショーツ、スカート）はJTAAの公認マークの付いているものを着用し、団体戦においては、チームの服装は原則同一のもので競技すること。

4. サービスについて

- ①フリーハンド（手首から先）の手のひらを開き、自由に転がる状態でボールを乗せて静止させ、16cm以上ボールをほぼ垂直に投げ上げ、落下する途中を打球すること。
- ②①の間、ボールはエンドラインの後方で、台の高さよりも高い位置であること。
- ③ボールが手のひらから離れたら、すぐにフリーアーム（腕）とフリーハンドをボールとネットとの間の空間の外に出すこと。

5. 促進ルールについて

- ①ゲーム開始後10分が経過した場合（ポイントスコア合計が18ポイント以上に達していない）は、促進ルールを適用する。

6. タイムアウトについて

- ①タイムアウト（1分以内）は、団体戦は4回戦から、また個人戦は5回戦から適用する。
団体戦で複数台を使用する試合では、アドバイザーもタイムアウトを要求することができる。その際、手で「T」の字を作り、審判にその意志を明確に示すものとする。

7. アドバイスについて

- ①個人戦のアドバイザー1名は5回戦より認める。ただしベンチに入れるのは当該校の教職員、部活動指導員、登録コーチのいずれか1名とする。

8. その他の注意事項

- ①試合前の練習は2分とし、審判はネットの延長戦上で台と台の中央に立ち、「ラヴオール」の宣告で開始すること。
- ②試合をする選手は最初に必ずラケットを見せ合うこと。その場でSR、エンドを決めて、練習を開始すること。練習後は、すぐに試合を開始すること。
- ③認められた時間以外の選手へのアドバイスはルール違反なので特に留意すること。
- ④フェアプレーに徹し、応援も節度をもって行いマナーアップに心がけること。
- ⑤試合開始又は終了時は台から1m以内に整列をし、挨拶をすること。終了時の挨拶後に相手ベンチに行かないで、直ちに次の試合の準備をすること。
- ⑥幕・旗の掲示については、横幕は縦1m×横4mの範囲の大きさとし、校旗等は縦1.5m×2m以内とする。縦幕は許可しない。